

ウエルハーネスだより

185号

理事長からの言葉



上尾市向山1-14-7
社会福祉法人 竹柿会
TEL：048-782-0575
FAX：048-782-0590
令和3年10月26日発行

すっかり秋めいてきました。朝夕もめっきり冷え込んできました。つい先日まで夏日だったのが嘘のようです。この様子だと今年の冬も寒いのでしょうか。新型コロナウイルスの感染もおさまってきたようです。上尾市の飲食店では制限緩和の実験も行われているようです。第6波の予想があるようですが、外れてくれるといいのですが。

さて、今月は10月24日の朝日新聞に載っていた新型コロナウイルスの治療薬の紹介記事の中から軽症用の飲み薬について紹介したいと思います。

厚生省は、早ければ年内にも米メルクの「モルヌピラビル」を特例承認して、使えるようにする方針。軽症の人に使える飲み薬としては、世界初となる見通しだ。診断された段階で処方してもらい、手軽に自宅で服用できれば、重傷者を減らせると期待されている。

メルクは臨床実験の結果を公表。重症化リスクのある軽症や中等症の患者が入院したり、死亡したりするのを半減させることができたという。服用は12時間おきに5日間、計10回。メルクは、米食品医薬品局(FDA)に緊急使用許可(EUA)を申請している。米国での審査が終わり次第、日本にも申請する見込み。

米ファイザーも最終段階の治験を進めており、年内に米国でのEUAの申請をめざす。これらの2社は、濃厚接触者などが服用することで感染や発症するのを事前に防ぐ予防薬として効果があるかを調べる治験も進めている。ほかにスイスのロシュも治験が最終段階に入っていて、2022年にも申請する。

国内では塩野義製薬が9月から国内で無症状や軽症の患者約2000人に対する最終段階の治験を始めており、年内の承認をめざす。1日1回、5日間の服用を想定している。

抗インフルエンザ薬「アビガン」と抗寄生虫薬「イベルメクチン」は最終段階の治験を続けている。いずれもほかの病気では承認済みだが、新型コロナウイルスに対する有効性や安全性の評価は定まっていない段階。

新型コロナの軽症患者に使える飲み薬の第1号になる見込みのメルクの飲み薬は世界的に需要が高まることが予想され、政府は必要な量を確保できるよう交渉している。

これらの飲み薬は感染後の早い段階で使い、ウイルスが増えないようにするものだ。十分な効果を得るには、検査を拡充し、感染がわかればすぐに医療機関を受診して処方してもらえる体制をつくることも必要となる。

いよいよ飲み薬が現実となってきました。そうすると、いかに早く感染を発見するかだと思います。抗原検査も特例で薬局で買えるようになりました。症状があれば結構手軽に調べることができるようになりました。問題は無症状の感染者をどう見つけるかだと思います。当施設もそうですが埼玉県内の介護施設の多くは日本財団の無料の施設向けPCR検査を定期的に受診しています。一般の方々が定期的にPCR検査を行う体制をつくるというのは難しいのでしょうか。ワクチン接種、飲み薬、検査体制の拡充が、新型コロナウイルスを封じ込め、日常生活を取り戻すために不可欠だと思います。

9～10月の行事

特養では、ユニット毎に誕生日のお祝いをしました。また、魚釣りゲームやお茶会をおこなったユニットもありました。

デイでは、丸山公園へ季節の花を観にドライブへ出かけました。また、秋の向山運動会をおこなったり、ハロウィン飾りを作りました。



10～11月の予定

行事食として、10/31(日)ハロウィンのおやつにカボチャプリン、11/9(火)ご当地グルメ(北海道)メニュー「味噌チャーシュー麺か海鮮ちらし・カレーコロッケ・アスパラとキャベツのおかか和え・メロンゼリー」を召し上がって頂きます。

特養では、お茶会やハロウィンレクをユニット毎に計画しています。

デイでは、ハロウィンや秋を掴もうゲームを考えています。また、たい焼き作りなども予定しています。

特養のご家族様へお知らせ



・11/6(土)と11/9(火)に、ご利用者様と職員のインフルエンザ予防接種を行います。



特養 魚釣り



デイ 秋の俳句

デイ ハロウィン飾り



秋の味覚昼食



特養 おやつレク



特養 誕生日会



デイ 丸山公園散歩



デイ 秋の運動会

